

令和7年度 全国学力学習状況調査 分析

国語

〈成果〉

○全体的に大阪府、全国と比べて大きな差はない。

○スライドを使ってどのように話しているのかを説明したものを選択する問題では、大阪府、全国と比べて、正答率が高かった。

〈課題〉

○「変換した漢字『かいしん』として適切なものを選択する問題の正答率が非常に低かった。文脈に即した漢字を正しく使うことに課題が見える。

○長い記述式の問題はやはり無回答率も高くなっている。具体的な説明、理由がわかつたとしても、それらをどのように構成し、1つの答えを作るかということに課題があるようと思える。

〈今後に向けて〉

○文章の構成の仕方や接続する言葉の使い方などの丁寧な指導を行う。また、他者の文章や手本となる文章と比較し、より良い文章にするために訂正をしたり、更に工夫を加えたりする活動を日常的に取り入れる。

○個々の活動の場など、机間巡視をする中で、一人ひとりへのアドバイスを心掛けるとともに、良い解答や、参考になる作品など、全体に交流することで国語への意欲を高めていきたい。

数学

〈成果〉

○「素数の意味を理解しているかどうか。」を問う問題では、正答率が 52.3% であり、大阪府、全国より 20% 以上高い結果を示している。素数の基礎が定着している。

〈課題〉

○「式の意味を読み取り、数学的な表現を用いて説明できるか。」を問う問題では、無解答率が高い。

○「与えられた問題文から情報を読みとり、ともなって変化する 2 数の関係について考えて適した答えを選択ができるか」を問う問題では、問題解決の方法を説明するといった記述式の問題に対して半数近くの人数が無解答である。

〈今後に向けて〉

○やる気はあるが、数学的な言葉の意味を理解できていない場合が多く誤答につながっている。また、説明問題では意味を理解できていないため、文につながりがない。授業では、数学的な言葉の意味を強く抑えるとともに、班活動を通して、数学的な用語をつかってアウトプットし、定着させていきたい。

理科

〈成果〉

○元素記号についての理解は、全国と比べて高い結果であった。

○スケッチの技能についての理解では、全国と同等の結果となった。

〈課題〉

○動画から判断する問題については、正答率が低かった。

○スケッチから【茎の断面図】、【根】を判断する問題も正答率が低く、単元の構造的な理解が乏しいことがわかった。

〈今後に向けて〉

○動画問題で正答率が低かったことから、必要なものを選び出す力が低いと考えられる。そのため、対話問題や動画教材等を用いて、データや文章から必要な事を探す力を付ける必要があると考えられる。

○スケッチから植物のつくりに結びつける力が低いので、章末や単元末に構造的に理解させられるような仕掛けをつくりたい。

○記述問題についての無回答率が高かったことから、授業プリントや定期テストで、知識を身につけさせつつも、思考力を身に着けさせるために問題解決に充てる時間をふやしていきたい。そうすることで様々な問題に対応する力をつけたい。

学力担当より

・〈質問 32〉 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。

 肯定的・・・74.8 否定的・・・23.6

・〈質問 34〉 自分に合った教え方、教材、学習時間になっていましたか。

 肯定的・・・74.4 否定的・・・24.1

・〈質問 17〉 学校の授業以外の家庭学習の時間はどのくらいですか（平日）

 3 時間以上・・・16.1 2 以上 3 時間以下・・・22.6 1 以上 2 以下・・・25.1

 0.5 以上 1 以下・・・14.6 0.5 以下・・・9.5 全くしない・・・11.1

・〈質問 19〉 学校の授業以外の家庭学習の時間はどのくらいですか（土日）

 4 時間以上・・・6.0 3 以上 4 時間以下・・・8.0 2 以上 3 以下・・・14.6

 1 以上 2 以下・・・16.6 1 以下・・・25.6 全くしない・・・24.6

↓

質問 32・34 から授業の内容に関してはさらに改善をしていく必要がある。同時に、家庭での学習時間（質問 17・19）が少なく、知識として定着しているものが少ないと考えられる。家庭での学習時間、特に土日における「全くしない」の割合が多い。平日は学習塾での学習時間が反映していると思われる。学習塾や家庭教師等の時間以外での学習の習慣をつけていく必要があり、自学自習の徹底と取り組みが必要である。